

広報

まつだい 1987/6月

■発行 新潟県松代町役場総務課 電話 松代7-2220番 昭和62年6月29日 第331号

孟地小学校

大運動会

六月十四日



《人口の動き》 男2,833(-12) 女2,880(-6) 計5,713(-18) 世帯数1,622(-1)
6月1日現在 出生7 死亡5 転入9 転出29

豊かな緑

どこにも負けないぼくらの郷土

(植樹祭標語 特選作品)

蓬平小学校六年 小堺友幸くん



第15回上越地方植樹祭

開催される林道室野城山線

第十五回上越地方植樹祭が、(上越地方植樹祭実行委員会と松代町主催による)五月二十六日室野字大開(県道月池、松代線から林道室野、城山線約一・五キロほど入った所(通称城山)で行われた。

小高い山の上の国旗は初夏の風にたなびき「松代、おら町」の曲は流れ、野には野鳥がさえずった。

午前十時からの式典には知事代理(小池工事検査官)や上越地方の市町村の代表者約四十名始め、地元奴奈川小学校、松代中学校など関係者六百名が参加した。また中頸妙高原町杉ノ沢



小学校や中郷村中郷中学校の緑の少年団員も駆け付け華をそえた。

来賓祝辞の後、関谷町議会議長が、将来へ向って郷土に緑豊かな森林を造成していくために、五項の重点目標を宣言し、続いて緑化功労者の表彰、知事表彰、室野部落を始め各委員長表彰の後、緑化ポスター、標語コンクール表彰が行われ、標語の部では蓬平小学校六年生の小堺友幸君の「豊かな緑 どこにも負けないぼくらの郷土」と松代中学校三年生小堺加恵さんの「緑をふやして、明るい未来」

が特選になった。また、ポスターの部では、松代小学校の五年生の浜川稔和君の作品と松代中学校三年生の牧田久実子さんの作品が特選に選ばれた。

参加者全員による植樹(千二百本)が行われる頃には雨も降りだし杉苗は立派に育つように土をかけられた。

植樹祭では、小・中学校に常緑樹のモミの木が贈られ、参加者に、コブシの苗木がプレゼントされた。

緑化活動を通じて豊かな情操と、たくましい実践力をそなえたいものである。

高さ16尺奈良の大仏描いたぞ

松代小学校菅刈分校



松代小学校の屋上からつり下げられた「奈良の大仏」



五月二十八日(木)初夏の風が心地良く吹く午後一時すぎ、町立松代小学校(田中恵校長)の屋上(三階)から奈良の大仏(高さ十六メートル幅十一メートル等身大が姿を現わした。

松代小学校菅刈分校の五、六年の児童四名(高橋実くん、相沢千恵美さん、市川真規子さんが四時間以上をかけて製作したものである。下書は先生からも手伝ってもらった。

仕上げは松代小学校の屋上で「開眼式」本校の児童も一緒になって目を入れて感激を味わ

った。

社会科で奈良時代を勉強する取っ掛かりとして大仏を再現させたものです。

どうやって造ったんだろう、どうしてあんなに大きくしたのか、お金はどれ位かかったのか、何人でどれ位の月日がかかったのか……。など当時の天皇の強大さ、信仰の強さなど、時代背景を肌で感じ取っていた。

三階の校舎からつり下げられた「大仏」を見上げて完成を喜びあった。

蒔平小運動会

モグタン君一位に

六月十四日(日)町内の四・小学校で運動会が行われた。

蒔平小学校(柳沢正喜校長、児童数九名)も蒔平、小貫地区合同の大運動会が開かれた。

今年度新一年生がゼロ。このため「入学式がないのは寂しい」と子牛三頭(元氣君、強子君、モグタン君)が導入された。(広報四月で紹介)

この日は幼時から高齢者まで地域住民のほとんどにあたる約六十名が参加。「一年生」の子牛三頭は入場行進と、古タイヤを利用したレースに出場し、モグタン君が一位になり運動会を盛り上げた。



新成人にお聞きしました

町の将来の姿を！

広報五月号で新成人の方々の地元志向等について、アンケート調査結果を掲載しましたが、今回は、松代町の将来の姿等について新成人の方々のご意見を掲載します。なお七月号で、成人になられた方々の抱負等を掲載の予定です。

〔男子〕

Q27 町の将来の姿をみなさんはどのように望みますか。ご意見をお聞かせ下さい。

- 毎年4mほども降る雪が松代町の発展を妨げ人口減少の原因となっているが、この厳しい自然条件をクリアしなければ残念ながらいつまでたっても今の状態は変わらないだろう。しかし、自然条件を変えることができなくても様々な工夫で少しでも過ごしやすい環境をつくることは十分可能である。今の町民の生活は冬は雪に閉ざされ、肉体的にも精神的にも不健康な状態であると思う。雇用の確保や産業の育成も大切だが、何事も町民あってのことなのだから、町民の生活レベルアップを図り、そして僕は必ず松代が発展する時代がくると信じているから、その時には皆で協力し町を盛りあげたいと思う。
- 住みやすい町にする。
- これ以上人口が減らないで、もっと就職場を松代でつくってもらい、高校を卒業した人にはできるだけ残ってもらうようにしたら良いと思います。しかし、そう簡単なものでもないでこのままであってほしい。
- できる限り自然をそのままにしていってほしい。ぶな林、雪といった自然を活用した保養地。
- 外交がもっともないということ。それは観光を目的とするのなら、観光客を呼びよせる物、場がないと思う。交流を図るのならそれなりの準備が必要になってくる。町に観光客にアピールできる物、場、施設がないために人の出入がない訳で、町に若い人がよりつくような場をつくらない限り人口減少はストップできないと思う。雇用の場を上記と一緒に行えば若人も松代町に定着するのではないのでしょうか。私がもし松代町にもどることになるならば上記が完備された時だと思う。でも若人は一度都会をいった方がいいと思う。井の中の……にはなってほしくない。
- 若い人が松代町をはなれて関東地区に転職したりで、松代町は人口が減る一方ですが、それは仕方ないのですが、それなりにやっていると、町は自然消滅しないでしょうか。要するに松代町が自然消滅しなければいいのではないのでしょうか。

- この美しい自然を守りながら、無理のない施設の設立をのぞみます。
- 冬でも出稼に出なくても仕事があるようにしてほしい。父親が出稼に出ているため、冬は家族が少なくなるというような家を少なくしてほしい。
- 「ないものねだり」をその他にせず自らにし、もっと活気を持った一人一人が現存するという姿、「あたたかみ」のある今までどうりの町の雰囲気から他に干渉しないということを加えた姿、具体的にはうまく言えませんが……
- できれば今のままであってほしい。自然があってあたたかい人がいて時間がゆっくり流れていて、こんなことは町からでたもののわがままかもしれないけれど、帰ってもあの頃のままであってほしいと思う。
- 近年、大企業特にエレクトロニクス関係の工場の地方進出が多いので、松代町も何らかの形で、企業の誘致を図り安定した雇用の場を増やしたら良いと思う。
- 若い人達が生まれ育ったこの松代町に帰ってきて、それぞれの人がそれぞれの仕事につき何事にも若い人達が中心になってこの松代町を発展させる。
- 例えば、民宿等を何軒かづくり、夏は屋外スポーツ、テニスコート等をつくったりして、大学のサークル等に安く貸せるようにして、冬はスキー場へのバス等を多くし、県内どこのスキー場へも通えるようにしてみる。町を宿泊地にして民宿を増やす。大学はサークルが多数あり、また部とは違い学校からお金がでないので安く合宿できる場所をさがしているのではないかと。全てこれは交通機関が充実しなければならないのだが。
- 僕はこれ以上、人口が減少せず、町全体に活気がみなぎる様のぞみます。
- 今までの町の明るい雰囲気を保ってほしい。
- 1. 自然があるのにその自然をうまく利用すれば県外の人たちももっと松代を見直すと思う。
2. テレビなどを使って松代町を売りこむ。
- 私としては、その町にある自然や土地をもっと生かして松代だけしかないものをつくってほしいと思うし、若人にもっと松代を見直してほしいと思います。これからの将来は若人が……松代をもっと大きい松代にしてほしいと思います。

○松代の四季というものは都会にない感動そのものである。例えば春のブナの若芽による山の新緑、夏の青葉におおわれた林、秋の山の紅葉、冬の新雪後の銀世界などである。このような自然がなくならないようにしてもらいたい。

○松代町が無くなる事をのぞみますが、現状としては私も含めほとんどの人達が町をはなれていく状態にあります。なぜ私達は町を出ていくのだろうと考えると、今現在の町の状況では人がいない。就職先がないなどという色々な問題があると思います。これはいつ頃からはじまったのでしょうか。私が物心ついた時にはすでにこのような状態にあったと思います。すべての人が職を求めて町外へ。これからは遠くはなれた町の人々が松代へ通勤してくるような職場が必要だと思います。雪が多くふるふらないはそんな苦ではないと思います。



〔女子〕

Q27 町の将来の姿を皆さんはどのように望みますか。ご意見をお聞かせ下さい。

○交通の便が良くなり、スキー場、ペンションなどの新しい設備ができ、他の県からの若い人などのにぎわう町になってほしい。松代町内のお店をたてかえ、現在ないお店（例、ファーストフード、ヤング向けのレストラン、ファンシーショップ、洋服、居酒屋、大きい書店、レコード店、喫茶店、etc……）等を新しく建設し、外燈などを立てる。また町内の若い人が他の県に移らないように仕事の出来る場所をつくる。

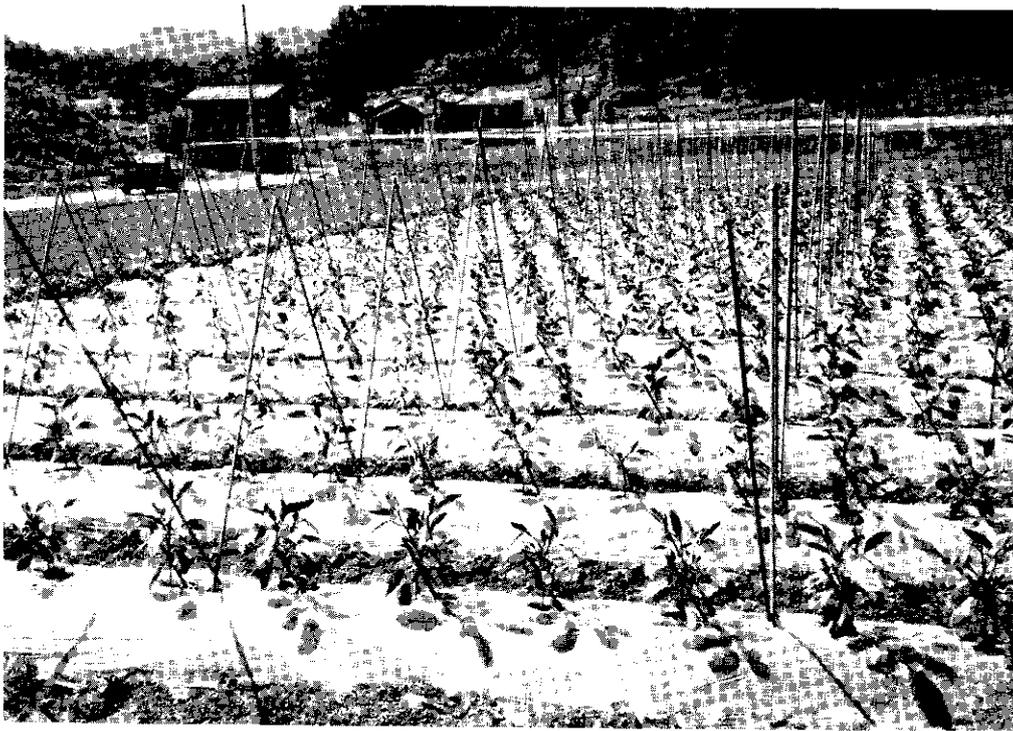
○今のままだとますます人口も減ってしまうばかりなので、やはり働く場所があれば若い人も残るだろうし、人口も増えるはずです。鉄道が通って交通の便も良くなって松代から職場に行ったりできれば良いと思います。でも松代は今のまま変わってほしくないとも思います。自分が生まれ育った所はいつまでものどかであたたかくて、心が落ちつく所であってほしいと思います。毎年帰っても街並みも何も変わってないとホッとします。松代が発展してほしいとは思いますが、今のままであってほしいと思います。

○今現在、人口の流出を止めようといろいろ考えられていますが、そのために今のままの姿をこわされるのはとても残念です。できることならばこのままそっとしておいて欲しいと思います。たとえそれが松代の人口が減ったとしても仕方がないと思います。皆さんが努

力しているのにすみません。

- 他の地域からも人が来てくれるような施設があってほしい。そしてもうこれ以上人口の減らないことを望みます。
- 昨年、ラジオ番組などで安塚町の雪のアイデア商品でよく町の名前を耳にしました。松代町も都会の町に松代町の名をとどろかせてほしいものです。いろんなことをためすことも必要なのではないのでしょうか。芸術家、文学者の住む町なら一風変わった町ができるのですが、夢のような話です。都会の新聞のチラシに、土地の売買、貸地などへ広告を出してみても……。
- 北越北線の開通に伴い、ますますよりよい町になるのではと期待しています。
- 企業誘致を図り、より活発な松代町となってほしい。
- こういったアンケートの中の若者流出の防止、観光開発による観光客の誘客など一つでも達成していったら我が町は発展していくことと思う。私の住んでいる南魚沼がいい例だと思う。湯沢町は新幹線の駅もあり、塩沢、六日町とともにスキーのメッカとして知られ、東京など関東方面をはじめとして全国各地からスキーヤーがやってくる。そればかりでなく、過疎原因である雪を利用してカーニバルをひらいたりして全国に自分たちの町をアピールしている。また大和町は新幹線の駅やスキー場があるばかりでなく、学園都市としても栄えている。全国ならず全世界の人たちを対象とした国際大学、そして医療の専門学校、北里大学附属北里保健衛生専門学院。話によればこれらの学校ができてから町の人口は2倍近くになったらしい。また、ゆきぐに大和総合病院があるため、地域医療は全国でも注目されている程充実しているようである。このように、隣の小出町や他の町村は過疎に頭をかかえているのに大和町はちがうらしい。これも一概に、新潟三区の強味といえはそれでおわりかもしれないが、町、町民の取り組み様によっては四区の松代町も大いに発展が期待されるのではないかと思う。誰だってこの町をきれいな人はいないと思う。まずは北越北線の早期開通を願い、それから種々の町の発展を祈りたいものである。
- 都会に出たいという人を引きとめることはできないでしょうから、せめて残りたいと思う人達が残れる様な環境にすることが必要だと思います。それからスポーツ施設等をつくるのは結構ですが、その施設管理者という立場の人達の知識も必要なのではないかと思います。
- 若い人がどんどん出ていきます。やはり職場が少ないということと豪雪のためではと……雪が少なければとても住みやすい、すてきな町になると思います。

- 将来、松代町に住むこともないと思うが、この町の発展のためにはなによりもまず、冬期の交通の確保が必要であると思う。夏期、冬期通しての安全な不安のない交通が確保できれば、都会からの年間を通しての観光客や保養者などがでてくると思う。つまり、最大の欠点である雪と山の中という地域性を利用することができないかぎり、この町の発展は望めないと思う。
- 自然をできるだけ破壊しないで下さい。
- スポーツ施設、福祉施設についての記入については“多目的体育館”のもっと生きた使い方を考えればすべてをつくらなくともすべて出来るだけの体育館だと思います。
- いつまでもあたたかい町であってほしいと思います。家に帰ったら両親がいる。都会にはないものが松代にはあるので、色々な施設とかデパートとか必要かもしれないが、いつまでもあたたかい松代であってほしい。
- これ以上過疎化がすすまず、美しい自然をいかして発展して行ってほしい。
- 今までどおりの平和な町であってくれば、私はそれだけで心のよりどころとなると思っています。
- 交通の便利がもっと良くなってほしいです。
- 人口が減っているのは事実だし、それを困ったと思い、色々考えている方々には申し訳ないけれども、いつまでも今のおだやかで静かで騒々しくない自然がある町の姿にしてほしい。観光などをすすめてマナーの悪い人が入り込んで町や自然が汚染されてあとで後悔しても遅いし、企業にしても、公害問題が後で勃発しても迷惑を受けるのは地元の人だから、そういうある種の無謀なことを適当な検討だけで、実行に移すのは絶対にやめてほしい。環境汚染、自然破壊、今ののんびりした雰囲気なくなることには反対です。
- 年々、町の人口が減少している今でさえ、都会生活を夢みた若者達は松代の地を離れていく。高校を卒業して都会に出るのが当たり前という感がする。正直いえば、松代の地に残りたかったというのが今の心境である。あの自然の中での保育園、小学、中学時代幸せだったなと今つくづく思う。これから先ずっと永遠に松代(室野)の姿が今のままであったらとは思いますが、実際私が今帰って就く職があるのだろうか。まずはそこである。高卒の若い人々の就職先、これを生み出すべきである。



転作を利用してナス栽培 斉木真一（室野）

期 間
6/29(月)～7/10(金)

転作田の現地確認が行われます

— 産業課 —

○今回の確認では、助成金が交付される転作田のすべてが対象となります。

本年より新たにスタートした「水田農業確立対策」は、農家の皆様のご協力により、転作目標面積の達成が見込まれることになりました。転作実施水田の現地確認が次の要領で、産業課及び農協職員が各農業共済損害評価員の協力を得て実施されます。

転作を実施される農家の方は、次のことに留意され、準備下さるようお願いいたします。

- ① 現地確認は、転作作物等が植栽され、十分な肥培管理が行われているかどうかのほかに、実施水田の面積や対象水田かどうかなど全般的に確認がされます。
- ② 転作田には配布された標札を必ず一枚ごとに立てて下さい。
- ③ 転作作物は確認までに植栽を完了して下さい。(但し、そばと秋植えの果樹・杉・桐等について

作物等別の確認時期

作物等区分	確認時期	
大豆・飼料作物	6月29日(月)～7月10日(金)	
果樹・杉・桐(前年までに植えたもの)		
一般野菜・小豆		
水田養魚		
農協預託水田		
農業生産施設用地		
土地改良通年施行		
そば	現地 6月	植栽 8月
青刈稲	// 6月	// 8月
果樹・杉・桐(本年度新規に植えるもの)	// 6月	// 11月

ては、実施水田のみの確認となります。これらは植栽後に再び確認が行われます。

④ 転作実施田は、下草刈等十分な管理をしておいて下さい。

⑤ 前年度までに植付けられている杉・桐・果樹等で折れたり、枯れたりしているものは秋に補植をしていただきます。

健康づくりが福祉である

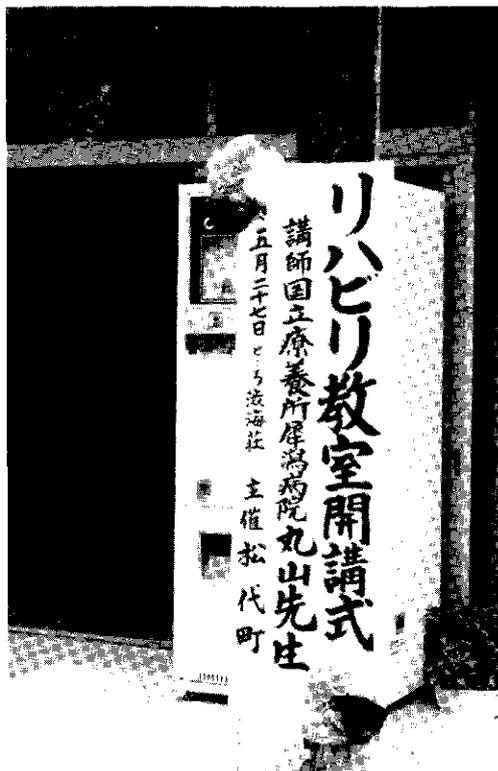
リハビリ教室開講

血圧の測定が行われ、体調のようすを聞く保健婦さん、リハビリ教室開講前の和やかな浜海荘の大広間である。

五月二十七日(日)国立療養所犀潟病院丸山先生、大島保健所上野保健婦を迎えて開講式が行わ

なかつたけれど、道路状況も良くなり教室を開くことができ、楽しい会にしたいと若月社会課長の談。

参加された方々の自己紹介や各自のリハビリ方法などについて意見が交された後、丸山先生



れ、家庭奉仕員など二十名近い関係者が集まった。

庭にはシバザクラが美しく咲き、活着なつた田圃にはツバメが飛びかつた。

開講は十年前からの希望であつた。色々な事情があつて出来

の技術指導に入り、会是一般と盛り上がった。

リハビリをされる本人も大変なことですが、回りにおられる方々の温かい御協力をお願いします。



白雪会全員による「浪花節だよ人生は」

田休みの夜

歌とおどりの祭典

蓬平・愛好会

三時頃から雷が鳴り雨となつた、六月十三日のことである。田植作業が終つてから何日目

かの土曜日の夜八時、第一回の「歌と踊の祭典」が(蓬平おさらい会、白雪会、蓬平越正会、カ

ラオケ愛好会、ダンス

愛好会主催、会員約四十名)が開催されました。越正会が結成されてから六年、小堺みよ子さんの秋田大黒舞が素晴らしいのであった。名司会に会場と舞台が一緒にたり、ダンス・民謡・踊り・カラオケと十一時近くまで続いた。外には霧がたちこめ蛙の歌がづく・。奴奈川音響が特別参加し祭典に華をそえた。地域活性化等、会後の活動に期待します。



ダンス愛好会

第4回春季隣接市町村バドミントン大会開催される



5月31日 総合体育館

第4回春季隣接市町村バドミントン大会が、5月31日町総合体育館を会場にして、隣接市町村より多数のバドミントン愛好者に参加していただき、大盛況のうちに終了しました。
尚、結果は次のとおりです。

※男子Aダブルス

- 一位 村山紀行、大淵 明組 (十日町高)
- 二位 坂詰浩一、石口博雄組 (松代協)
- 三位 水落良孝、星野慶一組 (下条ク)

※男子Bダブルス

- 一位 小川浩行、西野 宏組 (十日町高)
- 二位 小川俊二、大淵康之組 (十日町高)
- 三位 小海義久、水落広之 (下条ク)

※女子ダブルス

- 一位 市川なつ子、高橋直子組 (松代協、友羽会)
- 二位 中沢美幸、小堺広美組 (松代高職員)
- 三位 村山るみ子、吉沢孝枝組 (十日町高)

※男子Aシングルス

- 一位 村山紀行 (十日町高)
- 二位 石口博雄 (松代協)
- 三位 坂詰浩一 (〃)

※男子Bシングルス

- 一位 原口武志 (十日町高)
- 二位 本山昭夫 (大島ク)
- 三位 小川浩行 (十日町高)

※女子シングルス

- 一位 市川なつ子 (松代協)
- 二位 中沢美幸 (高校職員)
- 三位 村山るみ子 (十日町高)

※小学生男子5・6年の部

- 一位 山岸裕樹 (奴奈川小)
- 二位 柳 裕一 (孟地小)
- 三位 佐藤宏之 (奴奈川小)

※小学校女子5・6年の部

- 一位 柳 佐代子 (孟地小)
- 二位 下坂美香 (奴奈川小)
- 三位 柳 久子 (松代小)
- 笠原千秋 (〃)

※小学校男子3・4年の部

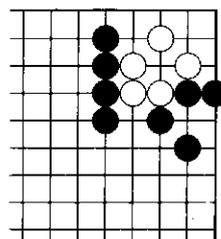
- 一位 関 浩志 (奴奈川小)

- 二位 柳 善輝 (孟地小)
- 三位 柳 和徳 (〃)

※小学生女子3・4年の部

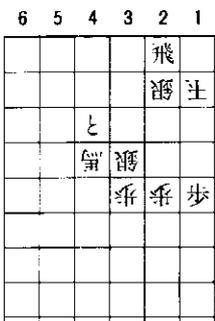
- 一位 小島千恵子 (孟地小)
- 二位 柳 満智子 (〃)
- 三位 米持 幸 (奴奈川小)
- 柳 亜希子 (松代小)

詰 碁



出題 本因坊 武宮 正樹
白先生き・3手まで
●ヒント：黒からの狙いを封じてあわてずに。
3分で3級、1分で1級。

詰 将棋



出題 八段 北村 昌男
●ヒント：玉方の馬を働かせないこと。
10分で3級、4分で初段。
持駒 金銀

初参加!

春季新潟県ジュニア

体操競技選手権大会終わる

女子団体 第6位 63・75点 種目別 跳箱 第4位 7・95点

石口香織 笠原千里 石口知之

笠原千秋 相沢星子

大会に参加して

石口知之

た。ぼくは四位になれてとてもうれしかったです。こんどの大会には、もっとよいせいせきをとりたいです。

大会に行つたこと

石口香織

五月十日に、新潟の鳥屋野体育館で、わたしたちにとって初めての大会がありました。みんなともうまかったのでびっくりしました。

わたしたちも早くあんなに、じょうずになりたいです。

ゆか運動のとき、そのつぎのふりを、わすれてしまいました。

へいきんだいのおきも、ブリツチでおちてしまいました。

いろいろと、ほかの人を見て、とてもいいけいけんになりました。

九月の大会では、もっとれん

ました。

ぼくは、体操の大会の前日さ

かて転んでもをいためてしま

いました。当日、鳥屋野体育館

に着いて、練習を始めた時には

足はぜんぜんいたくなかったの

で力いっぱい演技ができました。

成功した事は、とび箱です。松

代で練習した時よりもうまくで

きたと思えました。マットでは、

後でんとう立の時、うまくとう

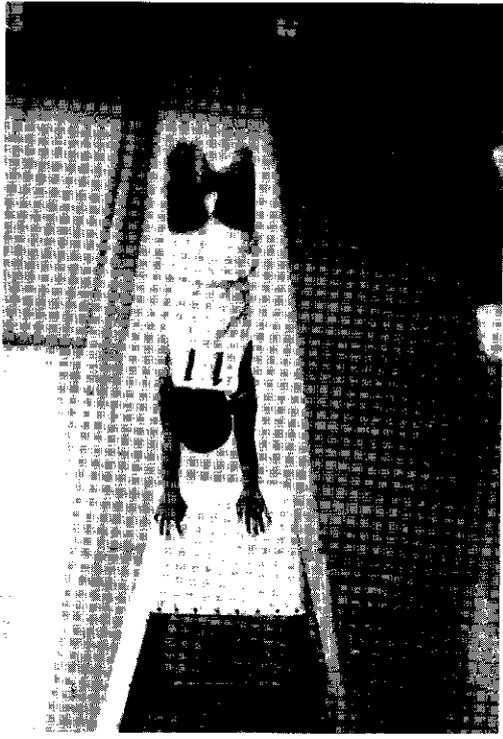
立できなかった事とバランスの

時、落ちていかなかったので体

がゆれてしまいました。鉄棒と



床運動の石口香織さん



とび箱四位の石口知之くん

初参加にしては良い出来であったという評価でした。今後に期待したいと思います。

男子団体 第5位 72・35点
石口知之 関谷 真
高橋哲也 山岸正光

村おこし 光る農委の 知恵と汗

7月12日

松代町農業委員会選挙

走ろう会の一年のあゆみ

まつだい走ろう会会長

高橋 徳

走ろう会が発足してから、十年になります。発足当時から、約三十名ほどの会員で、活動してきました。

昨年からは、町体育館の石口博雄氏のはからいで、各ジュニア教室の募集が行われました。

当協会は、昨年は小・中学生と父兄を合せて四十五名。

今年度は、小・中学生が六十二名、父兄十名の二世帯にふくれあがっています。

十年間、我慢した「甲斐」があつたなあ……と事務局の高橋博氏と回顧しています。

定期活動として

道路条件の良くなった現在、活動開始の時間も早く、四月下旬から始めます。毎週、日曜日の朝、六時頃になると続々と主会場である、町役場広場に集まってきました。

嬉しいではないか、広場いっぱいの子どもたちではないか、さすががしい気分です。

走る人が松代町をとりまく道を夢みていた時がきたのである。

やがては松代町をになう、若者達の躍動感が伝わってくる。

ラジオ体操の後、色々な注意をし、活動開始である。

低学年と高学年の二班に別れ、それぞれの能力にあつた走り方をします。

七十名が、ひとつの目的をもつて、駅前道路から松代本町を、一本の糸のように長々続く、「ガンバレ、ガンバレ」の声が飛び出す。

つぎつぎにゴールインする。

子どもたちの額に汗が光る。

さわやかで健康な汗である。

休憩の後、整理体操をして解散となるが、その後、乗用一輪車の練習に励む子どもたちが残っています。

「続けることの意義」
「継続は力なり」と言われ、何ごとによらず、続けるということは、そのための努力が必要になつていきます。

積み重ねられた力や、正しい技術は自分自身のもものになりま

す。会員一人一人が「継続」、「努力」したならば、必ず良い結果

が生まれてくると思います。

特別活動として

毎年、城山ハイキングが行われ、今年も五月二十四日、強風をついで、参加者五十名で行い

大自然のなかでの公共物や、植物との触れあいを大切にする心を養いながら、テレビにばかりかじりついている、現代子に不足している、恵まれた山野を

られています。

最後に皆さん歩きましょう。

一般に、長寿の方々は、体を良く動かしています。

つまり、手や足を良くつかいます。人間、歩くことが体力づくりの基礎になっています。

また、老化は足元から始まると言われます。ましては車社会の現在ではどこかでそれをおぎなつてやらなければなりません。

一日に一KMでも二KMでも一生懸命に歩くことが運動になります。また、軽い体操なども健康増進につながります。

一人一人が心がけて、健康で明るい生活ができるように皆さんとともに努力しましょう。

(ご報告)

第一回、スミセイ健康財団賞を授賞。

走ろう会では、日頃の地道な継続的な実践活動を通じ、地域の方々

の健康増進と体力づくりに大きく貢献したということで、昨年九月、財団法人、住友生命健康財団から表彰されました。

副賞として乗用一輪車四台とエレクトロニクススターター一台をいただきました。

この受授もすでに会を離れ、社会人として活躍している方々から、現在の会員の「継続」と「努力」の賜ものであります。

ました。

おもしろいおもしろいので、主に城内での朝食や遊びが中心になりました。

この行事は子どもたちが、よりいっそうの親睦を深めると同時に、子ども同志や大人との触れあいの場になっています。



駆けめぐり、もつと野生味ある。大自然への触れあいも大切だと思ひます。

今後、事務局では、一つか二つのイベントを考えているよう

です。

また、会と子どもたちとのつながりを大切にし、クリスマスプレゼントや年賀状が全員に贈

オオルリ

松代町の野鳥

野鳥

シリーズ④

松永 洸



夏鳥として松代町に、四月ころから渡来し、谷すじの開けた木の先端で、コバルト色の美しい姿でさえずっているこの鳥は、日本の三鳴鳥のウグイス、コマドリに次いで三番目に位置する歌い手です。姿は、ウグイス、コマドリよりずっと美しい姿です。

オオルリを分類しますと、スズメ白、ヒタキ科、ヒタキ亜科に属し、キビタキ、コサメビタキなどと同じ仲間です。オオルリに対し、コルリという鳥がありますが、コルリはヒタキ科ツグミ亜科に属し別の種類です。

オオルリの方言は、ルリ、と一般に言っておりますが全国的に見ますと、やまつばめ、るりどり、やまつばくろ、るりこまなどと呼んでいるようです。この方言のように、雄の色彩は、背面は、コバルトブルー（紺青色）で光沢があり、ノドから脇

にかけ2黒色で、腹部と尾のつけ根が白色の部分があり、野外で見ると、コバルトブルーが非常によく目立ちます。その反対に雌は、背面は灰褐色、肩、腰、上尾筒は赤サビ色が強くあまり目立たない色彩です。

松代町では、源太川周辺、筋平方面、中子周辺、室野方面に多く、松代町全域で観察されます。オオルリは、雄が先に渡つて来て、谷川沿いの林を中心にナワバリ（テリトリー）をかまえ、見通しのよい木の枝に止まつて、

ピーローリーリージツツとさえずっており、同じヒタキ亜科のキビタキに似た鳴き方ですが、さえずりの最後に、ジツツと鳴くことでキビタキと区別することができます。

雄と雌が（つがい）を形成しますと、雄はナワバリ内の見

はらしのよい枝の上で、声高らかにさえずり、雌はその間、一人（一羽）で、ナワバリ内の崖や土手の凹や、時には家屋の軒下に多量の蘇類を主材に樹根などを使って、お椀形の外径八〜一四、内径六〜七・五、深さ二・五〜五、高さ五〜一二センチメートルの大きさの巣を作り、産座には細根、リゾモルファ、蘇類などを敷き五〜七月ころ、白色の汚白色の卵を生み抱卵に入ります。

この間雄は、一生懸命ナワバリ内の見はらしのよい枝の何か所か（ソングポストという）で一日中さえずっているのです。雄は巢作り、抱卵には全然手をかさずに一日中さえずっているのです。何か遊んでいるように見えますが、このさえずりのおかげで、他のオオルリにナワバリを犯されずにすむのです。他のオオルリの雄が侵入すると勇敢に追い払い時には雄同志が空中戦のまま地面に落ちることもあります。

ナワバリを犯されることは子孫を残すことができなくなるのです。ですから雄は、遊んでいるように見えますが、よく見ると大変な仕事をしていることになるのです。

餌は昆虫類を生食にし、ハナ

カミキリ、コガネムシ、コメツキムシ、マメコガネ、カミキリムシ、ヨトウの幼虫、シヤクトリガの幼虫などを食べ、ノイバラ、ヤマザクラの果実なども食べるということですが、

ヒナがかえると、それまで一日中さえずっていた雄は、雌と一緒に、餌を取ってヒナに与えるようになります。しかし、餌を与えるだけでヒナをあたためるのは雌の親鳥だけです。

英名では、ジャパニーズ・ブルー・フライキャッチャーと言いい、ヒタキ科の特徴である。枝から飛びたつて、飛んでいる虫を捕えて元の枝にもどる、いわゆる、フライキャッチをくりかえします。オオルリの雄を見つけたら、しばらく物かげにかくれて観察するとこの行動を観察することができます。

今年、筋平のある所に、このオオルリが巣を作り観察しましたが、道路脇の小さな崖で、注意して見ないとわからないところに作っておりましたので本当に感心しました。一度この鳥を見たらわすれられない色と声をしており、探鳥会（最近では、バードウォッチングと言っている）に行きオオルリが出ると、「幸せを呼ぶ青い鳥」と紹介しております。

余談ですが、日本の鳥の中で緑色系の鳥を、アオ……と呼んでおり、アオゲラ、アオバト、アオジが、そうである。本当に青色系の鳥には「ルリ」をつけて呼んでおり、オオルリ、コルリ、ルリビタキ、ルリカケスなどです。

この鳥のナワバリについて、長野県のある所での調査により、長野県のある所での調査により、谷川に沿った一・五キロメートルに十一番のオオルリが住んでおり、一番は約一三六メートルをナワバリにしている計算になります。また川から離れた場所には見られなかったということ、谷川沿いがオオルリの生活場所であることが、わかったと言ふことで、このほか、林の中の湖のほとり、牧場の林の境付近にも住んでいたのとこのことですが、生活場所は谷川沿いということになります。それらを考えますと、松代城山のブナ林から、源太川沿いの木が格好の生活場所と言えるところです。

オオルリは、今あちこちの谷川沿いの崖などで、子育ての真最中です。双眼鏡を持って日曜日の早朝、城山の付近で、オオルリのコバルトブルーの姿を見声を聞くのも楽しい一日のはじまりと思ひます。



調査活動も

今年が正念場

今年には雪解も早く、それだけに、めまぐるしく変わる寒暖の変化に動植物の生育にも目を離せないものがあつたようです。

● **動、植物班**は季節の移りかわりに合わせてひっそり谷川に沿って調査を早くから開始しておりました。

● **今年度の代表者会** 去る五月七日、町史編集代表者会が開かれました。御案内した諸先生方全員お揃いで、誠に真摯な協議が行われました。

● **地質関係**では上越教育大学自然系スタッフをはじめ、高田高校の高野先生など、渋海川沿岸調査を中心に今年も追跡調査が行われます。

● **水質**は川の定点観測点をふやし、各地の井戸水調査も加わります。

● **動物調査**は水中動物、蝶類の季節分布調査が主になりまし

よう。

● **植物班**は各人の専門分野の調査とは別に、班全体で天然林の調査を行う由。

● **気象班**はデーターの検討に入りました。

歴史班の方は

原始、古代、中世担当は他地域との関連を考えた調査を行い。

古代、中世の古道調査、文化圏のまとまりに的がしぼられてきました。

● **十日町、津南、三国**へと広がる広域な史跡、遺跡、古道、文献等の調査と合わせて、改めて松之山郷の政治的、経済的位置づけが行われます。

● **城の調査**では、現大伏部落を直江津高校花ヶ崎教諭が生徒十名を連れて二泊三日がかりで、旧武將の館跡、館のくるわを实地測量します。(夏休みはじめ)

● **近世**(江戸時代)の章、節、項等内容の立項が進み、執筆の準備が整いはじめました。

明治、大正、昭和、戦後史は少し進行のバラつきがありましたが、初稿を書き上げて監修者の目を通っている人もおります。

代表者会

での確認

一、調査は全体として今年九月を以て完了する。

二、季節、地域事情等に左右される調査目的をもつたものは、九月以降の調査も止むを得ない。

三、十月始めから、原稿執筆にとりかかる。

以上のことが確認されましたが、参加者の声をお伝えします。

「松代町史の仕事で、町内あちこちで地域の皆さんにお世話になったが、ゆく所、ゆく所で親切にしていたいただき、仕事がやりやすい。」

「一つ、一つの部落を訪ね、部落長さんはじめ、皆さんの町史への関心の高さに敬意を表したい。きっとよい町史ができてすよ。」という声があります。

● **調査する先生方と、町民が一体**になって、是非よい町史を刊行したいと思えます。

※歴史の監修、新潟薬科大名譽教授中村辛一先生から「十二

神社について」という御寄稿をいただきました。六月、七月の二回に分けて掲載します。

十二神社について

一、山の神

大正十二年刊の「東頸城郡誌」に載っている神社のうち、現在の松代町で最も多いのは十二神社の一八社、次が松茸神社の一社です。その後の合祀勧請などで社数に多少の異動があるでしょうが、松茸神社が十二神社より少ないのはいささか意外でした。

● **十二神社は十二神、十二社、十二所、十二様、十二天**など同類の名称の神社を含めると全国的に分布していますが、関東甲信越以北なかでも越後にたくさん祀られています。

● **柳田国男**は「十二所または十二神」と言うのは山の神のことで、二月、十月等の十二日を以てこれを祭る村もあれば、また十二本の神木の話なども伝わって居る(「女房と杓子」といっています)。

● 「北魚沼郡誌」には「魚沼地方では山神の祭りは一般に二月十二日で、これを十二日講と呼び、明治以後は山神祠の名を十

二神社と改めた」と述べています。

● これらの記事で十二所、十二神、十二神社は山の神だと判ります。

二、祭神

● 山の神すなわち十二神社の祭神を「東頸城郡誌」でみると、松代町の場合ほとんど大山祇神となつています。この神は伊弉諾、伊弉由二神の子で木花開耶姫の父神にあたり、山を支配する神とされていますから「山の神」にはもつともふさわしいわけです。

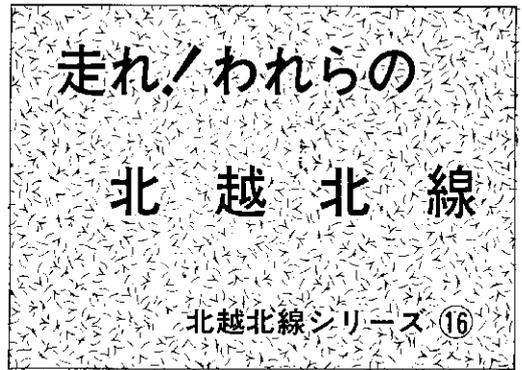
● **ところが**会沢小丸山の十二神社は少彦名神。木和田原の十二神社は伊弉諾尊ほか二神となつています。なお安塚町の小蒲生田西山の十二神社は天神七代地神五代を祀り、同町の防金吉谷と桃木平の十二神社はともに伊弉諾尊、下保倉の十二神社は国常立尊ほか十一神となつています。

● このほか薬師如来に仕える十二神將が祭神と思われる十二神社もあります。南魚沼郡大和町堂島新田の薬師十二社がそのようです。

● 《註》 中村先生の「十二神社」はこのあと七月号に続きます。

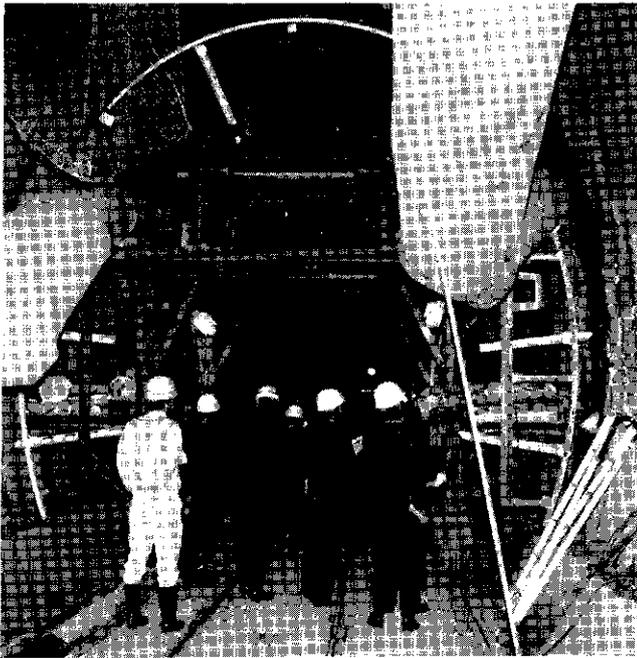
小・中学生の 松代町駅及び駅周辺の開発予想図 コンクール開催のご案内

日時 7月25日(土)~26日(日)
午前9時~午後5時まで
場所 松代町役場前



北越北線開通を待つ
蒲生小学校
六年 山岸 裕子
私達が住んでいる蒲生にも鉄
道が通ると聞いたのは、ずい分
前、私がまだ小さかった時のよ
うな気がする。儀明ではトシネ
ルをほるのに土質が悪くて、苦
勞している話なども聞いた。
でも、どういつわけか知らな
いけど、工事は中止になったら
しかた。
それが、おとしこちから、
蒲生に三か所、やぐらみたいなの
物ができて、昼も夜も機械が動
いて大きなドリルみたいなの物で
土をほっているようだった。雪
かふっても時には夜中まで仕事
をしているようだった。なんだ
ろうと思っただけの人に聞いたら

地質を調べていたのだった。
工事が再開されて六十五年未
には完成予定と聞いてびっくり
した。私達の住む蒲生の地下百
メートル以上も深い所でトシネ
ルがほられているということに
もおどろいた。
六十五年といえば、私は中学
三年生。そのころ、ほんとうに
北越北線は、開通しているのだ
ろうか。
開通したら上越市と六日町を
結ぶ鉄道になるそうだった。松代に
は駅ができるから、松代の人達
にとっっては便利だし、町もにぎ
やかになるだろう。
だけど、トシネルの上にある
蒲生が、この鉄道の開通で便利
になるのか、にぎやかになるの
か、私には、わからないう。



6月16日(火) 新潟運輸局鉄道部長ほか、6名の方が北越北線建設工事現場を視察された。
(写真：鍋立山トンネルを視察する一行)

(16ページより)

でも鉄道が開通したら、ま、先に電車に乗って上越市や六日町の方へ行ってみたい。

鍋立山トンネルを通る時、

「あ、この上に私人家があるに、なんて思いながら乗るのもわるくないな。：：。などと想像すると楽しくなる。

私は早く北越北線が開通しないかなあと待っている。

松代町青少年育成町民会議総会終わる

(5月26日)



青少年の健やかな成長を願う松代町青少年育成町民会議(会長市川明治、会員四十二名)の総会が去る五月二十六日に開催され、次の議案が承認されました。

- ①昭和六一年度事業報告及び歳入歳出決算の承認について
- ②昭和六二年度事業計画の決議について
- ③昭和六二年度歳入歳出予算の決議について
- ④昭和六二年度歳入歳出予算の決議について

なお、総会終了後記念講習会が催されました。講師には長尾義正先生を迎え、「家庭にともしびを」と題し、一時間三〇分にわたり、青少年の健全は家庭が暖かなければならないと熱弁され有意義な講演が行われました。

会員も年々拡張され今年は四〇〇名を上まわり毎月入会者も増えております。松代町の青少年のために御加入の程よろしくお願い致します。

「親と子の心のふれあい

健全育成」

第三日曜日は

家庭の日です。



故郷

富澤徳人(松代)



不思議な街です。松代では相手にでもしてくれない時があるけど此処では一人前としてあつかわれ又、全て一人で生活しなくてはならないので己をみがき大きくする事が出来た街。生活のルール、礼儀を学び成長させてくれた街、自分にとって忘れぬ事の出来ない街です。

自分がこの街での時を過ごし故郷を忘れかけたある日、TVで我が松代が放送された事があった。この街で松代が放送されるなんて、まして全国放送なんて、信じがたかったが、たしかに見た事のある風影なのである。松代には、自然が多く季節感覚が歩いていても感じとる事が出来た。雪が解けると、ふきのがうが出初め田植・稲刈・冬囲いや、毎年同じ所へツバメが巣を

Uターンについて何か書いて下さいと原稿を渡されてしまったからハタと困ってしまった。松代町民全ての人に拝読され、色々感想を述べられる(本人の耳には直接来ないと思うが)まるで授業中に一生懸命内職をしている時、先生に指名された時の心境である。



作り始めたりなどと、なつかしさと思いが脳裏を駆けめぐり不思議と目に熱い物を感じた事もあり、今頃は田植かな?雨が降ると田植しにくいだろうな、今年は豊作になるかな?...と我が松代の事が次から次へと浮び現在にふり返ってみると、この街は人口が多く、文化活動や商業が盛んで、にぎやかな街であるが、コンクリートジャングルと言われるほどコンクリートで固めている街で自然がない。(少ない)今まではそんなに思わなかったけれど、この街にいつの間にか染っていたんですね、やっぱり。

言葉にしてうまく書き表せないけれど、心の中でモヤモヤと何か感じた事を覚えています。やっぱり、好きなんですかネー生まれた処が。現実に戻って来てみると、それほど思っていたほどではなく、かなりのギャップがあったけれども反面、家の仕事を手伝い後で、親父と一杯これも最高。年に何回か仲間と飲んで語り、情報を交わしたり、今の自分は、学んで来た事で、仕事も充実し、楽しい毎日です。

自分の故郷を、思い出として記憶に残しながら、これからの人生を歩んでいきたい。

交通警察官手記集

「おじいちゃん、ただいま」⑥

「ある姉妹の死」

交通機動隊長岡方面隊 岡田道吉

私が署で交通係の主任をしているころのことである。学校が夏休みに入って間もない清々しい晴れた日の朝、幼い姉妹が九才の少年の運転する暴走車の犠牲となったのである。



父親に連れられ、久しぶりに親戚の家へ遊びにきた幼い姉妹が、親戚の家の前に到着し喜び勇んで父親の車から降りた瞬間、暴走車がカーブを曲りきれず、父親の車に激突し、姉妹は父親の車と親戚の家の板壁に挟まれ圧死したのである。親戚訪問を楽しみにしていたのであろうし、嬉しかったのであろうか、病院のベットに並んで寝かされていた姉妹の死顔には苦痛よりも微笑さえ浮んでいた。遺体にすがりついて泣き叫ぶ母親とただ茫然と立ちすくむ父親の姿とは対照的であった。涙が込み上げて慰める言葉もなかった。現場の実況見分に立会った父親が、板壁に着いていた我が娘の頭髪を見つけて無言で一本一本大事にある。

集めていた姿が、再び涙を誘った。姉妹の叔母がその板壁の下に菊の花と線香を供え、「痛かったらうね。苦しかったらうね。」と言って泣きながら合掌していた姿も脳裏に焼き付いている。父親の車は駐車場に入っていたのであり、少年の「暴走して格好の良いところを見せてやりたい。」という単純な欲望のために、罪もない幼い命が、一睡にして奪われたのである。この時ほど、交通事故の恐ろしさ、悲惨さを身にしみて感じたことはなく、この姉妹の死を無駄に全力を捧げることを決意したものである。

あなたの体は

お元気ですか？

今年も総合健診の季節がやってきました。年に一度体のチェックをして、今年、年を安心して暮らしましょう。

さて、今年から健診は従来の1次・2次を合わせて「基本健診」となり、全ての人が受けることとなります。より詳しく、自分の体のチェックをすることのできる絶好のチャンスです。この機会をのがすことなく、ぜひ受けるようにしましょう。

——あなたの体、胃や肺、子宮はお元気ですか。病魔はあなたの知らぬ間に、音もなく忍びよるのです。——

◎健診日

○7月13日(月)～7月18日(土)

◎受付時間

○基本健診：午前8時～11時

午後1時～3時

○レントゲン(肺がんを含む)

：基本健診と同じ

○胃検診：各自、受付時間を

○母性貧血検査：39才以下の者。

○肺がん検診：50才以上の喫煙者、及び喫煙の経験のある者。

◎健康料金

○基本健診：600円

※70才以上無料

○胃検診：500円

○婦人科検診：400円

○肺がん検診：400円

○婦人科検診
午後0時30分～1時30分
〈健康手帳を必ず持って来て下さい〉

指定しますので、時間までにおいで下さい。
(今年から検診車が2台となります)



○乳がん検診は11月に予定しています。

◎会場

松代町総合体育館

◎対象者

○レントゲン：一般住民全員

○基本健診：40才以上の者

○胃検診：40才以上の者

○婦人科検診：30才以上の者

「厄年にかん検診を受けて、厄払い。」

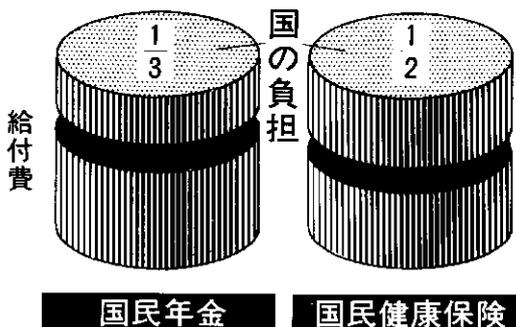
厄年は災難にあいやすいとされる年で、体もそれまでの無理から変調をきたしややすい年です。そんな時期にこそ、がん検診を受けて厄払いしましょう。

◎◎◎◎

税のゆくえ

医者にかかったとき、医療保険制度によって、軽い負担で治療が受けられるようになっています。また、老齢になったとき、厚生年金や国民年金などの制度によって年金を受けることができるようになっています。

医療保険や年金保険の給付に必要な費用は、

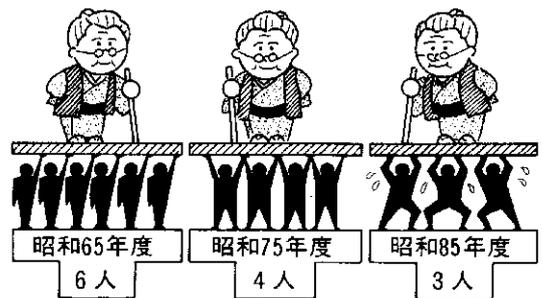


わたしたちの健康や生活を守るために

保険料で賄うことになっていますが、国もたくさん費用を負担しています。

例えば、国民健康保険の場合は給付費の50%を、国民年金などの場合は基礎的な年金の給付費の3分の1を国が負担しています。

このように、わたしたちの健康や生活を守るための費用を「社会保障関係費」といいます。



●厚生年金受給者と負担者の関係

昭和85年度には、老人1人を3人で支えることとなります。

パート2
非行
 何が彼らを
 そうさせるか
 問い直される親子関係 最終回

問題行動

親として何ができるか

一般論としての見方ですが、中学生の問題行動で圧倒的に多いのは“一過性”のものです。しかし、親の気持ちからすると、なぜこんなことを？いつからそんな子になったの？などと近視眼的な態度で原因を追求しがちです。過去にさかのぼって、あれこれ子供の言動を取りざたしたり、親子関係について“あのとき、おまえはこうだったから”とか、過ぎたことの中に、問題行動の芽を見つけ出そうとする傾向があります。

ご両親の気持ちはよく分かります。しかし、こうした受けとめ方は、ややもすると、本格的な非行への“第二次原因”を生み出すことになりかねません。思春期という心身ともに不安定な時期に起きがちな一過性の“症状”を、いわば慢性化させてしまう危険があるからです。

■好結果を生まない“過去重点主義”

対処療法としてお勧めしたいのは、いま、親として何をしてあげられるのか、親子関係のどういう面を改めていけばいいのか——など、いまとこれからに重点をおいた考え方をしていたいただきたいことです。子供の最初の問題行動は、子供から親に対する一種の危険を知らせる信号であることが多く、家族や友人との人間関係などで苦しんでいるというサインを発しているのを見ていいのです。あくまでも前向きに、今後のことについて考える姿勢こそ有効であって、過去のことまで根掘り葉掘りといった“過去重視主義”は、多くの場合、好ましい結果を生むことは少ないと断言できます。

■ゆとりをもって子供の行動を見つめる

いまの時代、子供の問題行動を誘発する“原因”の多くは、家庭よりも社会にあるといえます。親のしつけ教育の範囲をはるかに超えた

ところで、現代の社会状況が子供たちに多くの影響を与えています。そこで大切になってくるのが、問題行動に親がどう対処するかです。

自分の中学生のころを一生懸命思い出しながら振り返ってみるなどして、まず心にゆとりをもって子供に接してください。何日かたつとケロッと忘れてしまうような一過性の問題行動を、決して深追いしないこと。問題をより複雑にし、子供の心を屈折させてしまう心配があるからです。

思春期というのは、心身ともに揺れ動きながら、傷つきながら自分なりの生き方を模索する年齢です。より大きく成長するために、これまでの自分の殻を破ろうとして失敗することもあります。そして、また立ち上がって次の段階へ



チャレンジする——この繰り返しの過程の中で子供たちは成長を遂げていくのです。大きな視野の中で子供を見つめていてほしいと思います。

■子供の成長とともに親も生まれ変わる

中学生の子供は、親の言うなりにならないからこそ、子育ての面白さ・楽しさがある——そう考えられる心のゆとりが欲しいものです。子供と付き合うということは、毎日が新しい発見であり、子供の成長と歩調を合わせて親も日々新しく生まれ変わっていく。これこそ教育、つまり“共育”ではないでしょうか。

家庭ケースワーク研究所所長
 東京都世田谷区教育委員会生活指導相談員

岩佐 壽夫

戸籍の窓口

五月受付分

幸せ多い人生を(結婚)

関谷 幸人・西潟 昭子

(松代・大木)

柳 幸藏・高橋 かほる

(太平・太田)

西出 司・関澤 佐恵子

(松代・善宗塚住宅)

五十嵐 博・市川 美代子

(松代・松代ドライブイン)

げんきなよい子に(出生)

小嶋 ちえみ 父 満 母 玲子

(長女・犬伏・だんな)

富永 祥子 父 一郎 母 裕子

(長女・松代・釜田住宅)

秋山 祐輔 父 喜義 母 ひとみ

(二男・清水・かじや)

重野 孝彦 父 孝雄 母 佳代子

(長男・松代・釜田住宅)

大澤 藍 父 薫 母 千鶴

(長女・松代・釜田住宅)

石田 友美 父 幸作 母 百合子

(長女・芋島・幸右エ門)

室岡 貴之 父 裕之 母 睦子

(長男・松代・室岡南科医院)

二冥福を祈ります(死亡)

秋山 幾藏 88歳 清水・田甫

高橋 源治郎 78歳 荻平源左エ門

若井 カツ 80歳 千年 池元

米持 モト 81歳 室野 中三王

若山 新作 85歳 室野 引蛙田

火災の事例

今日も今夜も

火の用心

防災
シリーズ 60

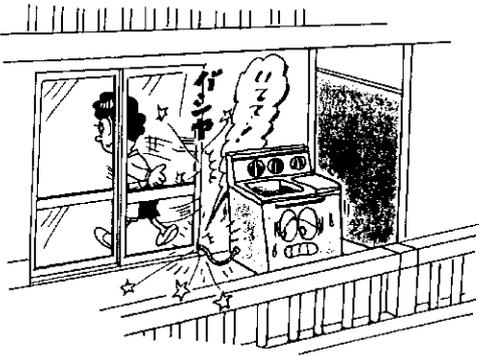
毎年全国で6万件前後の火災が発生していますが、これを一日平均で見ると毎日どこかで160件の火災が発生し、5名の尊い人命を失ない、およそ4億円の財産が灰になっています。このように大きな損害をもたらす火災も、ちょっとした不注意やミスによって起きており、いわゆる失火によるものが大部分です。そこで、日頃忘れがちな家庭における防火上の注意事項を生活ルールとして習慣づけることが大切です。それでは、いくつかの火災事例を取り上げてみましょう。

風呂のからだき



(漏水でから焚きによる出火)
水を入れ過ぎたため、水を減らそうと「栓」の鎖を持って水を抜き、施栓が不完全で漏水し、から焚きとなり出火した。

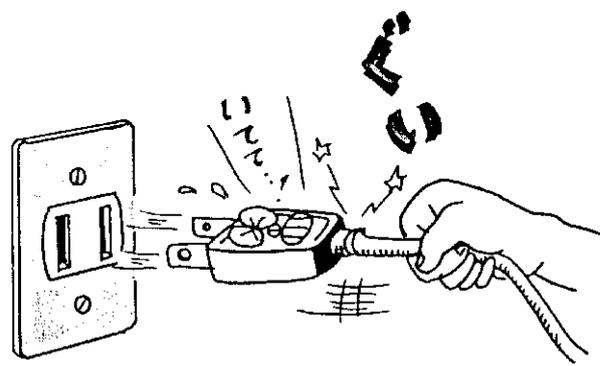
電気機器の火災



(不精が招くまさかの出火)
アイロンやヘヤードライヤーなどの電熱機器をコンセントに接続したままで、手元スイッチを「切」にしていたところ、何かのショックでスイッチが入り過熱し出火した。

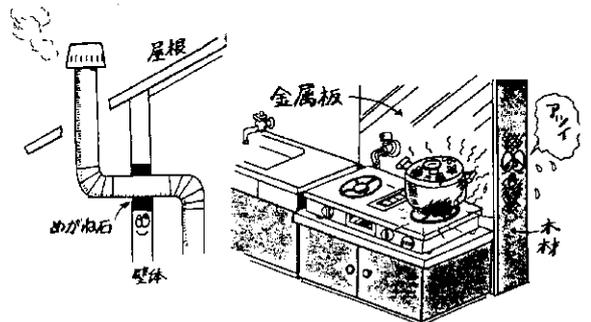
(使い過ぎ、酷使から出火)
やぐらこたつなどの中間スイッチ直近のコードが傷み、芯線が露出しショートして出火した。
(無理は火事のもと)
テーブルタップで「たこ足」配線し、同時に多くの電気器具を使ったため、過負荷となり、コードが過熱して出火した。
(コードは優しく扱って)
マンションのテラスに置いた電気洗濯機を室内のコンセントに接続して使用したため、戸の開け、閉めでコードの被ふくが破れショートして出火した。
(コードはスイッチではない)
コンセントからプラグを抜くとき、コードを引っ張ることを習慣としていたため、コードの取付部分がゆるみショートして出火した。

(低温着火による火災)
厨房のガス台に近接する壁の中から出火することがよくあります。ガス台に近接する壁に金属板(ステンレス・トタン等)やモルタル・タイル等が張りつ

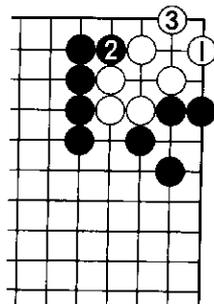


けてありますが、これを支える(下地)材料が木材で造られていると長期間ガスの炎により加熱され、木材が炭化して着火(低温着火という)します。

煙突や、煙道の貫通部やスチムパイプなどに木材などの可燃物が接触している場合にも同じように火災が発生しています。ガスコンロの炎などにより、加熱されるおそれのある部分には、木材等可燃性の材料を用いないことが大切です。



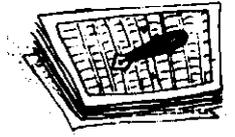
〈詰着解答〉
白1が好手、黒2に白3で生き、白1で2は、黒1が鋭く死となります。



〈詰将棋正解〉 1一金、同銀、1三銀、同玉、2四飛成、同玉、1四金まで7手詰め。

〈解説〉 玉方2五歩と3五歩の配置により、2四飛成、同玉、1四金までの詰みを予測できそうです。そこに至るまでに1一金をして1三銀の打ち捨ての発見が必要。

文芸



老妻を失う

下山 埋れ木

婆というよび名親しき三十年い
ま臨終に婆と呼ばいぬ

共に愛え共に楽しみ共白髪花の
季節に逝くが果報か

真心の嫁のみとりを肌にうけ今
瞑するは幸せならむ

乏しき財乏しかりにしわが心六
十年支えて老妻は逝きけり

「お先失礼」と言わぬばかりに
ほほ笑みて語るが如し亡妻の遺
影は

妻亡き朝初訪うつばめ翔び入り
て申う如く出でてゆきたり

しづみ句会

夕餉まだ出来るに間あり春の風
月天心田疲れの村早寝かな

去水

手指皆すべすと減り田植終う

花うぐい人に気付きし気配なし

枯水

代掻きも一段落や菊芽挿し

露茂る場所は本家の屋敷跡

紅茶

困い癖つきたるままに木木^{マキ}吹く

お寺から神社へ抜ける梅雨の道

淡水

初うどや不揃いなるも香りよし

何か噛む子の手に残る若葉かな

草人

見送る兎見返る教師春の雨

亡き母の待ちわびし桃花咲けり

千登世

ほろほろと山吹散るや遊園地

新緑の旅の宿舎にいこいけり

八千代

慈雨ありてしほみかけたる鯉幟

城囲む草木も初夏の香りかな

喜沙

山菜のほろにがきほど魅力とか

田植えつつ秋の収穫夢に見ん

世香

子供らのはしやく姿や風薫る

雨ふりて緑の濃さも一段と

しげ女

青田から浮草浮かせ水落ちる

夕暮れの青田に見えし螢かな

元

山毛^{マキ}櫛^シ萌えて鎌倉の谷河鹿鳴く

通草の芽つみ終えて日も昇りた

炳史

青葉また夕べの雨できらめきぬ

初夏や旅の誘いの便りくる

漕舟

若葉より陽のこぼれくる五輪塔

新緑の空真二つの飛行雲

公明

ただける粽を更に分かちあい

粽結うしぐさは亡母に似てきた

六花

り

蒲生句会

面白き蠅のしぐさを叩かずに

山菜が届いた電話長電話

折人

鐘の音の余韻濡らして五月雨

さなぶりや妻の想い出聞く一夜

月日

山つつじ農一筋の亡き父母に

一行をもて足る日記菖蒲咲く

ふさ女

兄の忌や比島をしのぶ鉄線花

家売らる鬼芥子の花ゆらゆらと

遠山に郭公鳴きて雨を待つ

鐵堂

朝靄を裂く一声のほととぎす

月高く蛙鳴き止む田水止め

耕人

雨漏りを避けて昼餉や山植小屋

明日在りと老の田植の早仕舞い

本降りとなりて郭公口噤む

耕山

露むきし瓜先の渋ちらと恥ず

チロチロと巢燕呑みし蛇の舌

田を植える全校児童十九人

龍峰

園芸一口メモ

松代園芸愛好会

野に咲く花

イカリソウ

花が和服の錨いかりに似た形なので錨草と呼ばれ、又その枝葉のつき方から三枝九葉草ともいわれる多年草です。株から五、六本出た茎の先に、春、錨形の淡紅色または白色の花を十個前後つけます。花が黄色い種類もあり

ります。
おいしい食べ方
ピーナッツあえ、ごまあえ、てんぷら、花の甘酢等でイカリソウ酒もできます。
薬用としては、強壯、強精、高血圧、利尿によくきます。
むかしの中国での話です。
ある老人が山を歩いていたらイカリソウを食べて元気になった老牡羊にであいました。老人がそのまねをしてこの草を食べてみると、不思議やグンと精力がついて元気になり、さっそく若い娘と結婚して、たくさんの子孫を残したということです。



トキワイカリソウ (メギ科)

開花期 4 - 5月
自生地 山地の木かげに生える。
本州日本海側の多雪地に分布する。